

に並ぶ四つの壇、古くは八つ壇とも呼んだものがある。この境界争いの古地図は下米塚の区長預りとなって残っている。近年のものとしては慶応二寅年（一八六六）四月二十五日の文書などが、古地図にはりつけてあるのを見受けた。

付 文化六年の風土記より

下米塚村 端村 出新田

府城の西に当り行程一里八町、家数四十七軒、東西二町六間、南北一町十七間、四方田圃なり。東七町五十三間高久組幕内村の界に至る。其村まで十五町、西四十五間、南二町二十四間、共に柏原村の界に至る。其村は申に当り六町余、北九町二十五間、本郡中荒井組二日町村の界に至る。其村まで十町十間余、又戊亥の方四町三間、本郡中荒井組中荒井村の界に至る。其村まで十一町余、辰の方八町、本郡南青木組飯寺村の界に至る。其村まで十九町二十間余。

○端村 出新田、本村の北五町にあり。家数九軒、東西五十間、南北四十間、四方田圃なり。寛政二年（一七九〇）に開けり。

○山川 清水、村北四町二十間にあり。東西三十八間、南北六間、宝曆七年（一七五七）洪水のとき田圃を決せし跡と云。

○水利 思いぼり堰、柏原村の方より来り。田地の養水とし、中荒井村の方に注ぐ。

○寺院 観音寺、境内東西六間、南北二十間、年貢地、村中にあり。古聖山と号す。府下大和町金剛寺の末山真言宗なり。天正中（一五七三〜一五九一）黙藏王と云僧草創せり。其後堂宇廢壊せしを、寛永元年（一六二四）長賢と云比丘中興し、観音を本尊とし客殿に安ず。観音堂、境内にあり。

○褒善 忠義者と右エ門、延享二年（一七四五）米を与て賞せり。貞節者多む、此村の農民左吉妻なり。寛政十二年（一八〇〇）同上。